

A. 新聞、雑誌等掲載記事

朝日新聞（平成 13 年 6 月 27 日）掲載.....	A-1
日本経済新聞（平成 13 年 6 月 27 日）掲載.....	A-1
西日本新聞（平成 13 年 6 月 27 日）掲載.....	A-2
読売新聞（平成 13 年 6 月 27 日）掲載.....	A-3
日刊工業新聞（平成 13 年 6 月 29 日）掲載.....	A-4
読売新聞（平成 13 年 7 月 25 日）掲載.....	A-5
週間経済（平成 13 年 7 月 17 日）掲載.....	A-6
財界九州（平成 13 年 8 月号）掲載.....	A-7

無線LANなど 実証的に実験へ

7月に福岡市で開かれる世界水泳選手権大会で、報道機関を対象に高速インターネットを使った情報発信の実証実験が行われることになった。

IT（情報技術）の研究開発をする財団法人九州システム情報技術研究所（福岡市）が中心となって各競技会場を無線LANと光ファイバーで結び、データ検索や記事の送信ができるようになる。

朝日新聞（平成13年6月27日）掲載

世界水泳で報道に 無線LAN無償提供

九州情報技術研

福岡市などが出資する財団法人「九州システム情報技術研究所」は二十六日、福岡市で七月に開かれる世界水泳選手権大会で、運営関係者や報道機関に無線LAN（構内情報通信網）を無償で提供すると発表した。同研究所は無線LAN実用化に向けた実験を続けており、今回の無償提供もその一環。

日本経済新聞（平成13年6月27日）掲載

福岡市が出資する財団法人「九州システム情報技術研究所」(同市早良区)は二十六日、七月の世界水泳選手権大会で、各競技会場(五カ所)を無線LAN(構内情報通信網)とファイバーで結ぶ高速通信システムを活用し、競技結果などを

報道機関に提供すると発表した。

無線LAN通信システムを利用すれば、会場内で、競技結果や選手のプロフィールなどを知らせるホームページに

プールサイトで通信自在

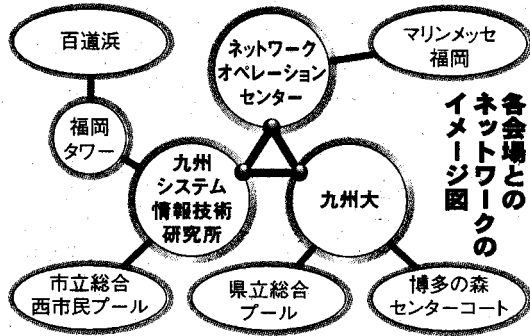
無線LAN活用

世界水泳、報道用に

アクセスしたり、映像、写真、記事などを送受信する際、電話回線や携帯電話などが不要になる。

無線LANの通信速度は、有線のISDN(総合デジタル通信網)回線の約百七十倍。期間中、競技会場に小型の無線基地局計二十カ所を設置し、報道関係者に通信用の無線LANカード約百枚を配布する。

各種機器や工事費などを合わせた総費用は四千万円。



九州システム情報技術研究所(福岡市早良区百道浜)は、七月十八日から同市で開催する「世界水泳選手権大会福岡2001」の各会場で、コードレスの高速インターネットの実証実験を行う。各国の報道関係者に最先端のインターネット環境を体験してもらい、「IT(情報技術)先端都市」をアピールするのが狙いだ。

九州システム研が実験計画

IT先端都市・福岡アピール

世界水泳会場 高速ネットの網

コードなくても瞬時に専用カードでアクセス

パソコンに専用の「無線LANカード」を入れると、場の競技結果速報にアクセスコードとつながっていき、選手データ検索の速さで通信でき、会場み。

また、大会運営本部では、多区のマリンメッセ福岡など五つの競技会場と同研究所などで即座に見ることができ、防犯などに役立ててもらおう。コードレスの高速通信サービスは、また実験段階。この実験には、同研究所や大学、IT関連企業などが参加し、実用化への道や技術的な問題点なども探る。大会期間中、高速通信環境を整備するため、同市博

また、大会運営本部では、多区のマリンメッセ福岡など五つの競技会場と同研究所などで即座に見ることができ、防犯などに役立ててもらおう。コードレスの高速通信サービスは、また実験段階。この実験には、同研究所や大学、IT関連企業などが参加し、実用化への道や技術的な問題点なども探る。大会期間中、高速通信環境を整備するため、同市博

高速ネット実証実験縮小

世界水泳会場 TVへの影響理由に

関係者落胆

福岡市で開催中の「世界水泳選手権大会福岡2001」で、報道関係者を対象に行われている高速インターネットの実証実験が、テレビ放送への影響を理由に、メイン会場のマリニメ

ッセ福岡で中止されていたことが二十四日、分かった。各国の記者に「IT先端都市」をアピールする計画だったがだけに、関係者は落胆を隠さない。

する研究機関「九州システム情報技術研究所」（同市早良区）などが、コードレスの高速通信を実用化するために持っている。パソコンに専用カードを入れると、会場内を移動しながら

でも、通常の二千倍の速さで競技結果の情報を得たり、選手記録などのデータ検索、記事送信もできる。ところが、開幕直前、放送権を持つテレビ朝日が使う電波の周波数が、実験用の周波数と重なることが判明。大会組織委が「放送に支障があったら大変」と中止を求め、支障のない他四会場のみに縮小された。

同大会には三十か国以上、約千五百人の報道陣が訪れているが、実験に加わったのは十一人。外国人は一人だけ。山崎広太郎市長は「もう少し早く、何らかの手が打てなかったのかと思う。残念だ」と話している。

読売新聞（平成13年7月25日）掲載

高速インターネットの実証実験を開始

九州システム情報技術研究所 七月十六日から

九州システム情報技術研究所(略称・ISIT 福岡市早良区百道浜二丁目、牛島和夫所長)と、九州ギガポッププロジェクト(略称・QGPOP 同所、荒木啓二郎代表)は、七月十六日から開催する第九回世界水泳選手権大会福岡二〇〇一にて「高速インターネット実証実験」を開始する。

この実験は、両組織と九州大学の三者間で昨年から研究開発してきた高速インターネットを外部のネットワークで実証するというもの。

今回、競技会場となる五カ所を光ファイバー(四十四〜百三十五メガ・ビット)で結び、無線LAN(十一メガ・ビット)により、次世代インターネットサービスを提供していく。サービス対象は、主に大会運営関係者やプレス関係者となっている。具体的なサービス内容として期待される効果は、分散開催となる各会場間を高速回線に接続することで、他会場間の円滑な連絡や情報の共有が可能となる。また、無線LANにより会場内を移動しながら各競技場の結果速報へアクセス、出場選手データの検索及び記事の送信、さらには次世代インターネットプロトコルIPv6により、世界へ向けて高速に情報を発信することが可能となる。

牛島所長は「今回の実験は、限られた時間の中で実施されることから、より高度な技術を必要とする。実験後の成果をもとに、今後は社会にとってより良いインターネット環境を提供できるよう研究開発を進めるとともに、広く情報産業や地域社会の発展に寄与していきたい。また、モバイルの高速インターネットをビジネスとする企業とタイアップし研究開発を進めることで、高速インターネット環境の普及に努めていきたい」と話す。

九州システム情報技術研究所は、一九九五年に福岡市が中心となり設立した財団法人。産学官連携による最先端のIT研究開発に取り組んでいる。

九州ギガポッププロジェクトは地域の産学官で連携、二〇〇〇年から三年間にわたり「超高速バックボーンへの地域集約接続アーキテクチャとその利用に関する研究開発」に取り組む。

牛島所長は、東京都出身、三十七年生まれ、六十三歳、東京大学大学院数物系研究科修士課程修了、九州大学大学院システム情報科学研究科長を経て、今年四月に同所長に就任した。

(山本)

福岡市

世界水泳選手権大会で 高速インターネット実証実験

福岡市などが出資して設立した財団法人九州システム情報技術研究所 (ISIT、福岡市早良区百道浜) は、九州大学や企業などの協力を得て、7月16日に開幕した第9回世界水泳選手権大会福岡2001(同

月29日まで開催)で、最先端の情報技術を使った高速インターネットの実証実験を行った。

これは、市内5つの競技会場を光ファイバーケーブルと無線LAN(比較的狭い範囲での情報ネット

ワーク)で結びイメージ参照、大会運営関係者やプレス関係者を対象に、携帯パソコンにより情報の受発信を行うもの。

ISITは、平成7年の設立以来、最先端の情報技術の研究開発を行っているが、昨年度からは産学官が連携し、高速インターネット技術などにかかわる研究開発を進めてきた。今年3月には、福岡市内で無線LANの実験に踏み切り、今回、国際的なイベントを舞台に実証を行うことになった。

実験の目玉は、無線LAN。無線方式なので、会場内をパソコンを持って移動しながらインターネットを利用できる。ケーブルを敷設するコストを削減できることも魅力だ。プレス関係者は、取材先の会場で出場選手のデータを検索したり、競技結果速報をリアルタイムに見て、記事を送信できる。

また、今回採用されたプロトコル(通信をする上での約束事)IPv6は、次世代をにらんだ先進のもの。世界に先駆けた情報発信だ。

こうした無線方式による高速インターネットの研究や実用化は、全国的にもまだ緒についたばかり。

世界のトップスイマーたちの熱戦が、インターネット先進都市福岡から最新の技術で世界に発信された。

【問い合わせ先】

- ・ISIT TEL 092-852-3450
ホームページ //www.isit.or.jp
- ・QGPOP(九州ギガポッププロジェクト)
ホームページ //www.qgpop.net

無線LAN環境での使用イメージ図

